

第24回 同窓会クリスマス礼拝

「救いますか救われますか、愛しますか愛されますか」

—ルカによる福音書2章8〜16節

青山学院宗教部長 伊藤 悟

詩人であり画家であった星野富弘さんの詩です。

よろこびが集まったよりも
悲しみが集まった方が、
しあわせに近いような気がする。

強いものが集まったよりも
弱いものが集まった方が、
真実に近いような気がする。

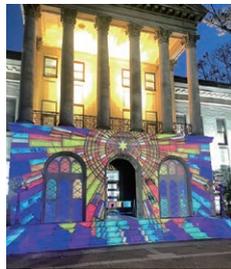
しあわせが集まったよりも
ふしあわせが集まった方が、
愛に近いような気がする。

「しあわせ」「真実」「愛」、いずれもクリスマス重要なテーマです。クリスマスはただの喜びの時ではありません。悲しみや弱さ、ふしあわせを抱える人々が集まってきて希望を見出すときです。聖書のクリスマス物語では、悲しみや弱さ、ふしあわせを象徴する人々が登場します。それらを抱えたままイエス・キリストのもとに集められたのです。



私たちはより高い目標を追い求め、より良い自分になるために多くの自己努力をします。見た目を整え、成績や収

入などで自分を評価し、常に「上向きの矢印」を描こうとし、自分の努力で救われようと必死です。しかし、クリスマスが示すのは「下向きの矢印」です。天使はマリアに「あなたは救い主を宿している」と告げ、ヨセフに「マリアを受け入れなさい」と伝えました。また、羊飼いたちに「救い主が生まれた」と知らせ、東方の博士たちに星が示されました。これらは、すべて上から下に注がれる神の愛のメッセージなのです。私たちが光を求め、はたして、まず闇の中に光がもたらされました。



Noel Christmas Projection Mapping

現代社会では、多くの人々は悲しみや孤独をどこかに追いやりとうします。戦争や経済的混乱、政治的不安定さが続くなか、表面的に取り繕うことに多くの人が苦心しています。しかし、クリスマスは、そうした悲しみや弱さをそのまま差し出してよい時なのです。イエス・キリストは、私たちのすべての

弱さやふしあわせを引き受けるためにお生まれになりました。

「愛すること」と「愛されること」、どちらが先でしょうか。答えは「愛されること」です。私たちは、どれだけ愛されてきたかによって、どれほど愛することができかが決まります。自分の努力で自分を救い出そうとするのではなく、上から注がれる愛と救いに気付くこと。愛そうとする前に、自分が愛されていることを知ること——これがクリスマスメッセージです。神の愛は、私たちの努力や条件を超えて、上から下へと一方的に注がれるのです。

今日、あなたを愛し、救うために一人の嬰兒があなたのところに生まれまされた。このクリスマスするとき、祝福と恵みが豊かに上から下へ、あなたのもとへと降り注がれますように。

礼拝ご報告

2024年度アドベントは青山学院創立150周年記念のクリスマス・ツリー点火祭に始まり、間島記念館前に飾られた馬小屋（プレゼビオ）に目を引かれました。短大同窓会は、設立50周年の一年を締めくくり、12月14日、短大礼拝堂において、伊藤悟先生にクリスマス



献金の送り先 (2024年度) 合計 100,514円

①公益財団法人 日本キリスト教婦人矯風会 「女性の家 HELP(緊急シェルター)」	20,514円
②日本基督教団 新生釜石教会	8,000円
③日本基督教団 宮古教会	8,000円
④NPO法人 東北ヘルプ	8,000円
⑤社会福祉法人 神戸いのちの電話	8,000円
⑥社会福祉法人 東京いのちの電話	8,000円
⑦NPO法人 信州 共働学舎	8,000円
⑧社会福祉法人 鎌倉 薫風学園	8,000円
⑨社会福祉法人 興望館 杏樹学荘	8,000円
⑩学校法人 アジア学院	8,000円
⑪NPO法人 アジアキリスト教教育基金	8,000円

メッセージを賜り、奏楽は青山学院大学オルガンスト松浦光子先生、司式は小澤美幸運営委員によるクリスマス礼拝を執り行いました。

ハンドベル・クワイア(ゲロリアス・クワイア)の奉鐘、飯靖子先生指揮「The First Noel」「A way in a Manger」「Silent Night」が母校の礼拝堂に響き、「聖書と讃美歌の会」所属の運営委員が献金奉仕をお捧げし、同窓生一同、福音を味わい讃美歌を賛美して、ご降誕の喜びにあふれるひと時となりました。

元短大長河見誠先生、元短大副学長趙慶姫先生にご臨席いただき、100名を超えての同窓生が集い、「今年は今以上以上に心に残るクリスマス礼拝でした。」との思いを寄せていただき神に感謝。それぞれの灯に光と愛が注がれますように。

54 C 文化スポーツ事業部 荻口由美子(山本)